

教授挨拶 (2013年)



2013年6月1日に新設された学科目 呼吸器外科学教授に着任いたしました。北海道初の独立した呼吸器外科教室を主宰することとなりました。

私は、1985年本学を卒業後(32期)旧第二外科へ入局し、一貫して胸部外科医(呼吸器外科、心臓血管外科)として診療、研究、教育に携わって参りました。1999年からは、呼吸器外科を専門として現在に至っております。

私のモットーは、「在心在途、諦めない」です。このスタンスで、これまで活動してまいりました。呼吸器外科は、肺腫瘍を主たる対象疾患としており、その中心に肺癌があります。主な治療には、外科治療、化学療法、放射線療法がありますが、早期肺癌に対する治療の主体は、依然外科治療であり、肺癌死亡数が増加している中呼吸器外科医の役割は重要となります。

北海道には、呼吸器外科専門医は少なく、同じ人口規模の福岡県の2/3、千葉県の3/4しか存在しません。肺癌手術症例の増加が予測されている昨今、優秀な呼吸器内科、放射線科、呼吸器外科専門医の養成が危急の問題と考えます。教室では、年間約280例の外科手術症例と60-70例の出張手術症例をこなしております。設備、教育システムも整っており呼吸器外科専門医資格の取得は短期間に比較的容易に可能と考えています。さらに、資格を凌駕する、より低侵襲で高品質の外科スキルを習得することが可能です。

研究に関しましては、基礎分野では、肺移植免疫抑制、虚血再灌流傷害の抑制など、臨床分野では肺癌と間質性肺炎合併例の外科手術成績、呼吸器外科領域の低侵襲手術などを研究してきました。今後、肺再生機構の解析と応用、肺悪性腫瘍の分子生物学的解析と治療標的の探索などに関しても範囲を広げ行う予定です。

最後に、これから医師になられる医学生諸君、研修医の諸君に一言述べさせていただきます。我々の教室は、診療、教育、研究どの分野をとっても、これから大きく発展する可能性を秘めております。手術室への入室から退出の間に、創と痛みを与えてしまうものの、患者さんの運命に少なからぬ幸福と安堵を与えることができるのは、我々外科医チームなのです。しかし、悲しいことに、その逆も起こり得ます。患者さんに幸福と安堵を与える可能性を増すために、我々はともに日々研鑽努力しなければなりません。定位置に留まらず、我々とともに過去から未来へ、狭き所から世界へ羽ばたこうではありませんか。

資格

日本外科学会指導医(S007837)

日本胸部外科学会指導医(呼吸器)、評議員

呼吸器外科専門医 (2100848 呼吸器外科専門医合同委員会)

日本呼吸器外科学会指導医、評議員、総合診療問題委員会委員、専門医審査委員会委員

日本がん治療認定医機構暫定教育医（第 071368）
日本呼吸器外科学会胸腔鏡手術インストラクター
日本胸腔鏡手術研究会世話人
日本 Nuss 法およびロート胸手術手技研究会世話人

略歴

1985 年 札幌医科大学 医学部 外科学第二講座 研究生
1990 年 札幌医科大学 医学部 外科学第二講座 助手
1994 年 砂川市立病院胸部外科医長
2001 年 札幌医科大学 医学部 外科学第二講座 講師
2002 年 カナダカルガリー大学胸部外科臨床研究員
2007 年 札幌医科大学 医学部 外科学第二講座 准教授
2013 年 札幌医科大学 医学部 呼吸器外科学 教授

所属学会

日本胸部外科学会、評議員
日本内視鏡外科学会、評議員
日本外科学会、代議員
日本呼吸器学会、評議員
日本肺癌学会、評議員
日本冠動脈外科学会
日本胸腔鏡手術研究会世話人
日本 Nuss 法およびロート胸手術手技研究会世話
世界肺癌学会
ヨーロッパ胸部外科学会
アメリカ胸部外科学会（STS）
学会委員など
日本胸部外科学会 評議員審査委員会委員
日本呼吸器外科学会 評議員審査委員会委員
日本肺癌学会 ガイドライン作成小委員会委員（肺癌外科治療、胸腺腫）